



米子市埋蔵文化財センターたより

第51号

2023年12月



尾高城跡が国史跡に指定

尾高城跡は、令和5年10月に開催された文化庁の文化審議会を経て文部科学大臣に対し国の史跡に指定するよう答申があり、令和6年2月ごろの官報告示をもって正式に指定されます。

昭和49年から米子市勤労福祉センターの建設に伴い発掘調査が実施され、城域の多くは市の指定史跡となっていました。城の主要部については未調査であったため、市指定史跡の範囲からは外されていました。しかし、令和4年度に国史跡へ格上げを目指し、米子市は尾高城跡の第11次調査を実施しました。調査成果としては、本丸では建物跡、土塁、石垣、築地塀が、二の丸では建物跡、石垣が検出されました。今回の発掘調査では、16世紀後半に本丸の大造成や掻き揚げ土塁等が確認されました。また、尾高城は、今まで土塁や空堀で構成される土づくりの城であると考えられていましたが、第11次調査では、二の丸と本丸の間の本丸北堀から石垣が、本丸の西辺の土塁の下からは石塁が確認されました。これによって土づくりから石づくりの城への移り変わりが分かり、過去の発掘調査、文献調査によって尾高城の変遷が明らかになりました。

尾高城跡は、鎌倉時代に始まり、戦国時代を経て、一国一城令による廃城までの約400年間にわたって営まれた城郭です。また、奇跡的に開発がなされず、この400年間の移り変わりの様子を状態よく残しています。これから中世西伯耆の歴史を解明するのに重要な城郭です。今後、尾高城跡を国史跡として保存するために適切な計画を策定し、整備に取り組みたいと思います。現在、本丸と二の丸は個人の所有地のため立ち入ることができませんが、それ以外の中の丸や南大首郭などは自由に見学をすることができます。高い土塁や大きな堀を体感し、往時の尾高城を感じてみるのはいかがでしょうか。(米子市文化振興課 日下部)



本丸の石塁



本丸の石垣

発掘調査情報

－ 小町越敷野原第11遺跡の現地説明会を開催 －

小町越敷野原第11遺跡の発掘調査は終盤にさしかかり、これまでに縄文時代晩期(3200～2400年前)の陥し穴(おとしあな)、7世紀前半の集落跡、7世紀後半の古墳の横穴式石室を検出しております。

この調査成果を広く一般の方に知っていただくために、12月16日(土)に現地説明会を開催しました。当日は、天候が悪いにもかかわらず、37名の参加があり、あらためて興味・関心の高さを感じさせられました。

本遺跡の発掘調査は、来年の3月末まで実施する予定です。



遺構説明



出土遺物見学

整理室たより

－米子城跡三の丸出土遺物の実測－

整理室では、令和3年度に発掘調査を実施した米子城跡三の丸から出土した遺物の実測を行っています。

出土した遺物には陶磁器や瓦などがあり、これらを等寸大で、しかも器形どおりに正確に計測して図化していきます。

ある程度形になったものは比較的容易ですが、細かい破片は、器の直径や傾きを推定しながら図化しなければなりません。また、染付は文様の細かいところまで正確に計測し、色の濃淡も表現するなど、正確さを要求される作業なので、とても神経を使う作業です。このように実測された図面は製図(トレース)をして報告書に掲載されます。(高橋)



実測作業の様子

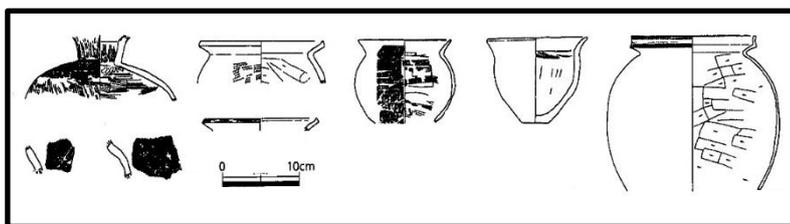
遺跡シリーズ 天萬土井前遺跡 (てんまんどいまえいせき)

天萬土井前遺跡は、南部町天万に所在し、法勝寺川と小松谷川により開析された丘陵の先端に位置します。

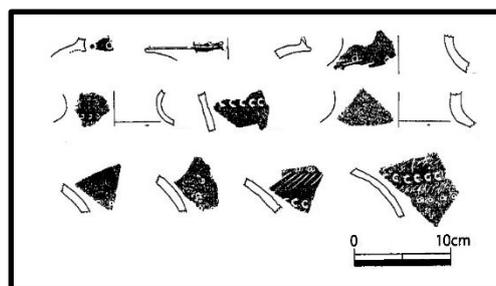
遺跡は、鳥取県住宅供給公社の宅地造成に伴い、平成8年度に財団法人鳥取県教育文化財団（現 公益財団法人鳥取県教育文化財団）によって発掘調査が行われました。

調査の結果、竪穴建物跡などの明確な遺構は確認されませんでした。古墳時代前期初頭の土器溜が2ヶ所検出されました。土器溜1は、3m四方に土器が集中し、壺7個体、甕24個体、高坏7個体、器台8個体が確認されました。また、土器溜2は、2m四方に土器が集中し、甕13個体、器台3個体、低脚坏1個体、脚台付坏が確認されましたが、壺と高坏は確認されませんでした。

出土した土器には畿内や吉備などの外来系の土器があり、スタンプ文を施した土器も認められます。弥生時代後期には、吉備系の土器が比較的多く見られますが、古墳時代前期になると、畿内系を主体とした外来系の土器が米子平野周辺でまとまって出土しており、弥生時代から古墳時代への移行期の社会情勢を色濃く反映していると考えられます。



外来系土器



スタンプ文土器

コラム 発掘された遺物

—古墳時代後期の土器—

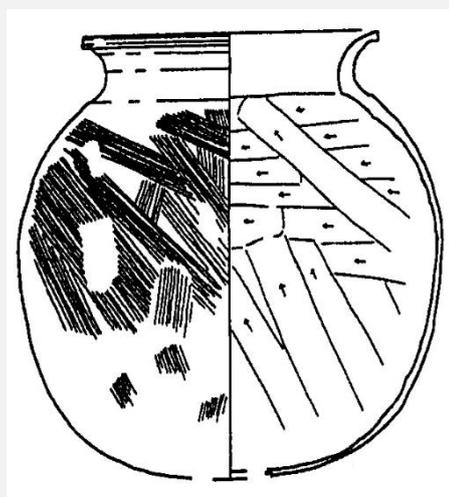
古墳時代後期は、およそ千五百年前から千四百年前と考えられています。

後期前葉の土器は、壺は形骸化した複合口縁を持ちます。甕は複合口縁がほとんど退化して痕跡のみとなります。

後期中葉の土器は、壺は沈線で画する複合口縁となります。甕は複合口縁の退化が進み、この時期までに複合口縁は見られなくなり、これ以降、単純口縁のみとなります。

後期後葉の土器は、壺はわずかに屈曲を残すものとなります。甕は後期中葉と大きな変化は見られません。

(高橋)



後期の土器 (新鳥取県史より)

センター・資料館日誌

- 10月 1日（日）米子市立山陰歴史館・米子市公会堂主催の「米子歴史絵巻」に協力した。
- 10月 14日（土）第2回史跡ガイドウォーク「福市古墳群・青木古墳群」を開催した。
- 10月 14日（土）～令和6年1月15日（月）福市考古資料館企画展2「尾高城跡の発掘調査の最新成果ー土の城から石の城へー」を開催した。
- 10月 15日（日）むきばんだフェスタに協力した。
- 10月 16日（月）～18日（水）米子北高校生徒3名をインターンシップで受け入れた。
- 10月 21日（土）・22日（日）ダイヤモンド大山観望会で米子城跡のガイドを行った。
- 10月 29日（日）啓成公民館祭で博労町遺跡第3次調査出土遺物を展示。
- 11月 6日（月）要約筆記の会に米子城跡のガイドを行った。
- 11月 11日（土）江美城を探る会に尾高城跡のガイドを行った。
- 11月 19日（日）第3回史跡ガイドウォーク「宗像古墳群」を開催した。
- 11月 23日（木）青谷上寺地遺跡史跡準備室連携事業「とっとり弥生の王国青谷かみじちフェスタ」にミニ石包丁づくりを出店した。
- 11月 25日（土）米子市主催の尾高城跡シンポジウムに協力した。
- 11月 26日（日）米子市連携事業「尾高城跡ウォーク」と「尾高城跡現地説明会」を実施した。
- 12月 2日（土）海とくらしの史料館に出前講座を実施した。
- 12月 4日（月）月山ガイドの会に尾高城跡のガイドを実施した。
- 12月 16日（土）伯耆町小町越城野原第11遺跡の現地説明会を開催した。
- 12月 24日（日）まちなか観光案内所ガイドに尾高城跡のガイドを実施した。
- 12月 27日（水）米子市立山陰歴史館主催の「歴史教室」に協力した。

編集後記

今年も早師走となり、大山も冬化粧をしています。夏は異常な酷暑、冬になっても例年よりも気温が高く、異常気象の1年でした。

コロナウィルスの感染は落ち着き、各種イベントが多く開催されるようになり、当センターでも昨年までは中止していたイベントを行うことができました。

調査室では、小町越城野原第11遺跡で発掘調査を行っていますが、例年よりも暖かいため、寒さに凍えることが少なく、順調に調査が進んでいます。

発行日 令和5年12月28日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者（一財）米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp